

狩猟免許更新講習 資料集⑦

鳥獣保護及び管理の概要

環境省自然環境局
野生生物課 鳥獣保護管理室

更新講習科目

(ア) 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟に関する法令

- (i) 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、同法施行令、同法施行規則及び同法に基づく環境省告示並びに都道府県の告示及び同法に関する都道府県の条例、規則、告示
- (ii) 絶滅のおそれのある野生動植物種の種の保存に関する法律、自然公園法、自然環境保全法、文化財保護法、銃砲刀剣類所持等取締法及び火薬類取締法、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律中の鳥獣又は狩猟に関する事項

(イ) 鳥獣の判別

狩猟鳥獣及び狩猟鳥獣と誤認されやすい鳥獣の形態、生態、識別の概要

(ウ) 猟具の取扱い

- (i) 網及びわなの種類、構造及び装置方法の概要並びに使用上の注意事項
- (ii) 使用禁止の猟具と法定猟具の区別
- (iii) 銃器の種類、構造及び威力の概要
- (iv) 銃器の操作方法並びに保管、携帯及び運搬の要領
- (v) 事故防止の注意事項

(エ) 鳥獣の保護及び管理に関する知識

- (i) 鳥獣の保護及び管理（個体群管理、被害防除対策、生息環境管理）の概要
- (ii) 錯誤捕獲の防止
- (iii) 鉛弾による汚染の防止（非鉛弾の取扱い上の留意点）
- (iv) 人獣共通感染症の予防
- (v) 外来生物対策

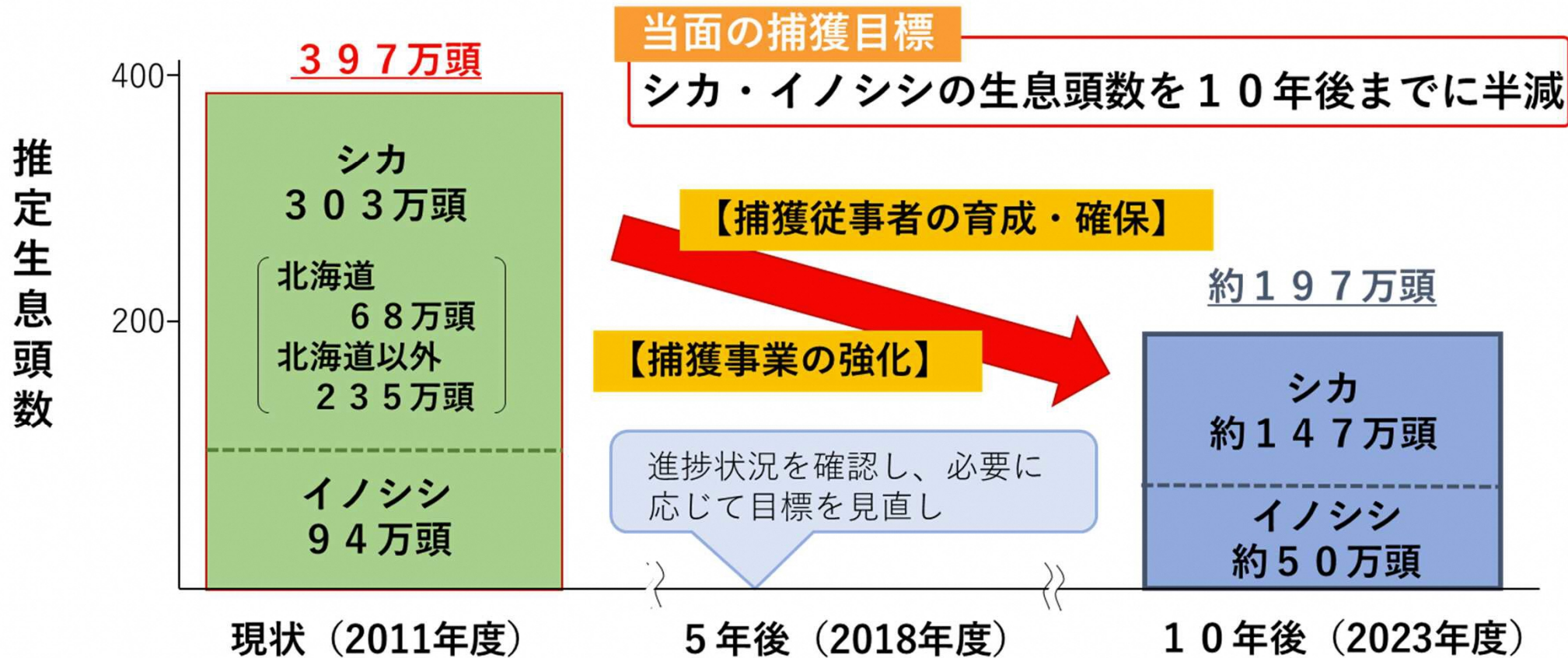
鳥獣の保護及び管理の現状

1. ニホンジカ、イノシシ等の鳥獣の増加と被害の深刻化
2. 主な鳥獣の生態と捕獲の留意点
3. 科学的・計画的な鳥獣の保護及び管理の必要性
4. 鳥獣捕獲の担い手にかかる現状

抜本的な鳥獣捕獲強化対策

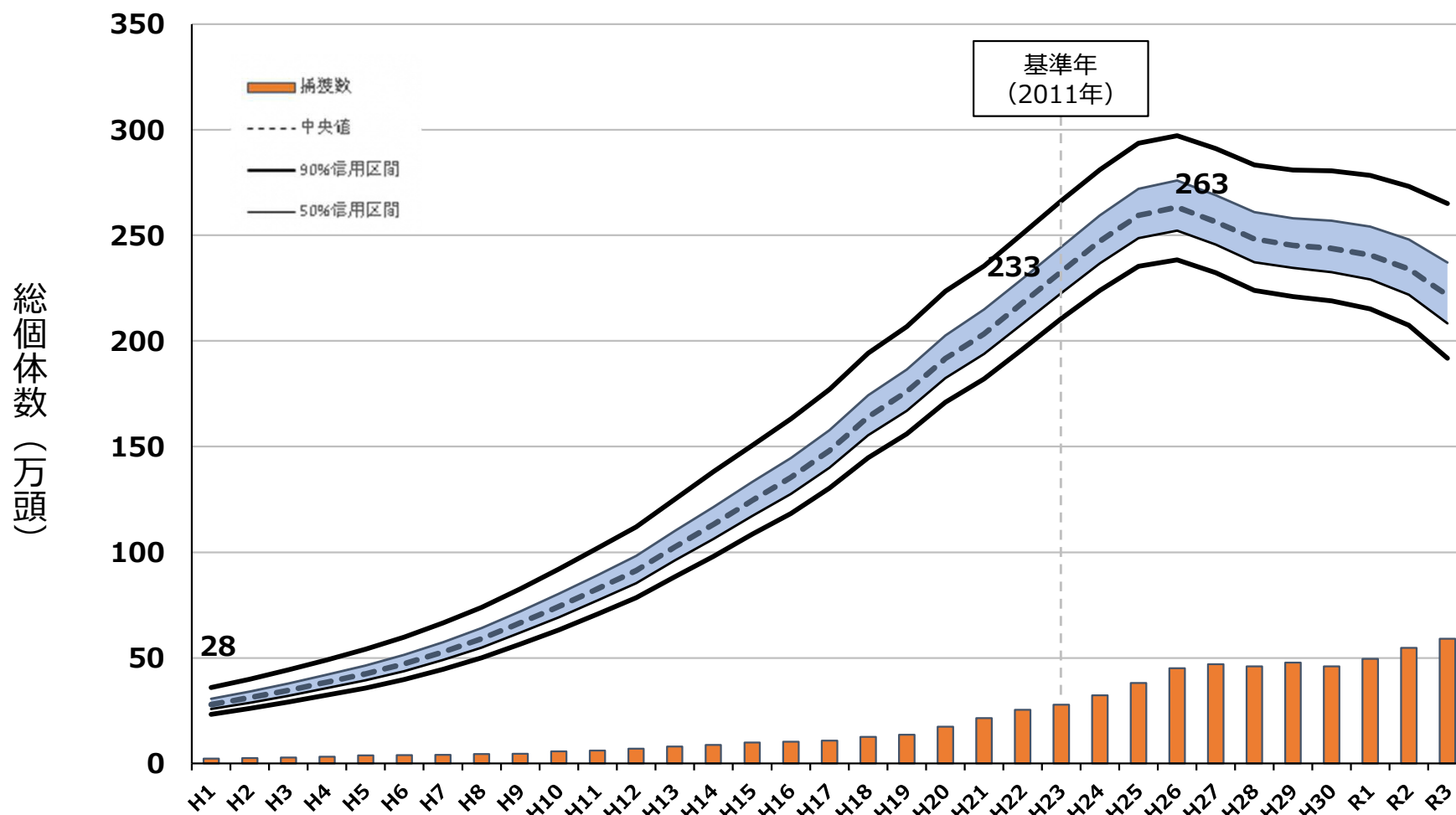
- 2013年12月、環境省と農林水産省が共同で取りまとめ。
- シカ、イノシシの個体数を2023年度までに半減させることを目標。

【抜本的な鳥獣捕獲強化対策イメージ】（推定生息頭数は2011年度のもの）



全国（本州以南）のニホンジカの推定個体数

- 令和3（2021）年度末におけるニホンジカ（本州以南）の推定個体数は、中央値で約222万頭（90%信用区間：約192～265万頭）。
- ニホンジカ（本州以南）の推定個体数は、2014年度（平成26年度）以降、減少傾向が継続。

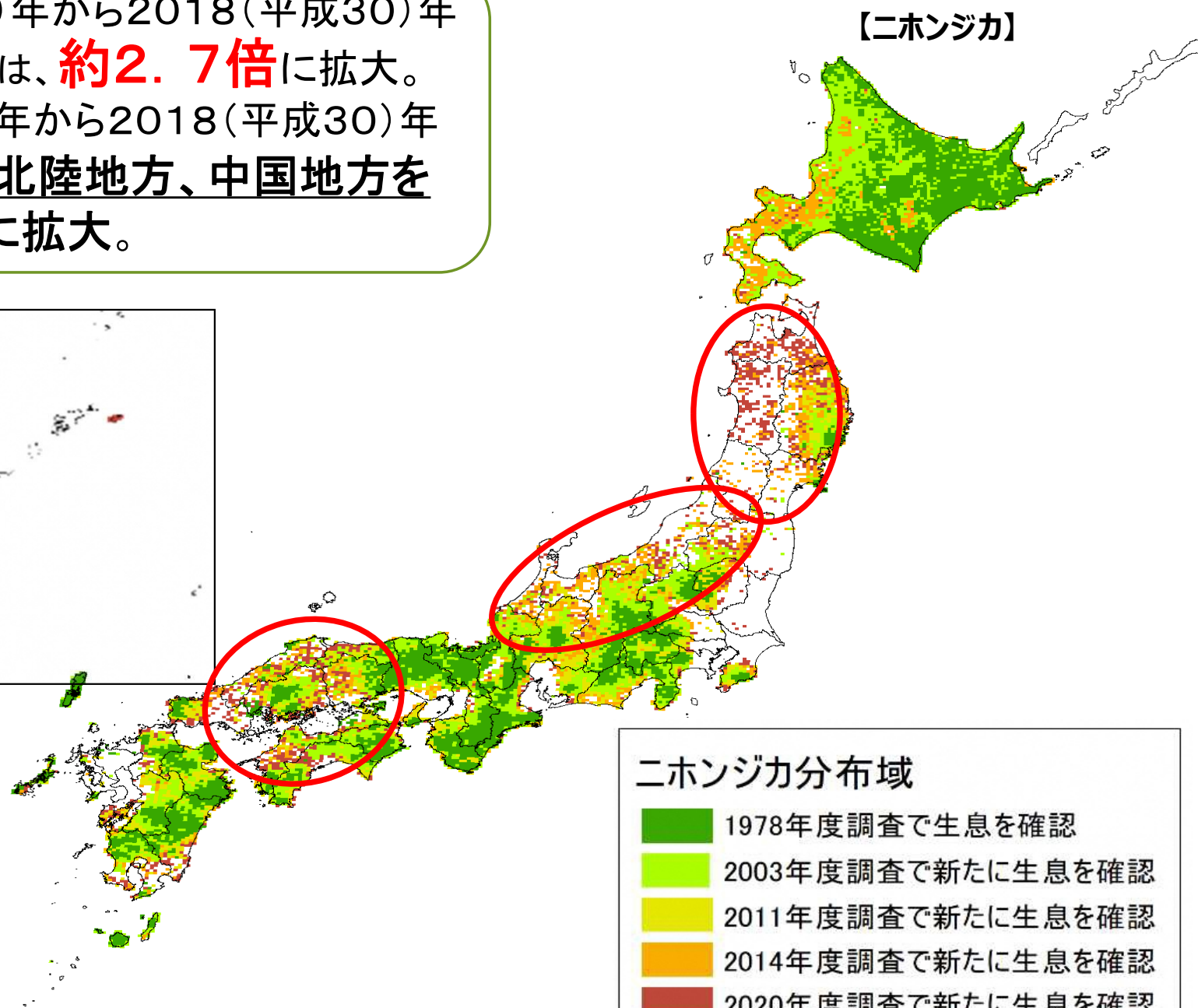
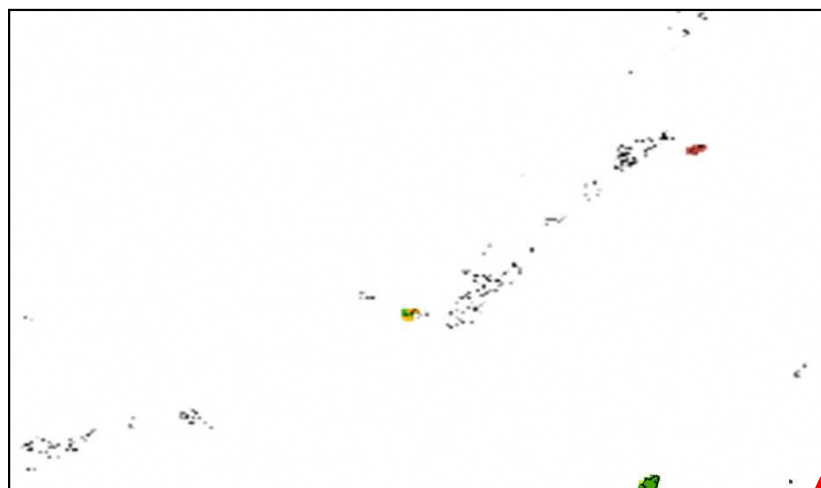


※ 令和3(2021)年度の自然増加率の推定値は、中央値1.20(90%信用区間:1.17-1.23)

※ 令和3(2021)年度の北海道の推定個体数は、東部地域31万頭、北部地域18万頭、中部地域20万頭、南部地域3~20万頭(北海道資料)

分布域の拡大（ニホンジカ）

○ 1978年（昭和53）年から2018（平成30）年の40年間で分布域は、**約2.7倍**に拡大。
2014（平成26）年から2018（平成30）年の4年間で、**東北、北陸地方、中国地方を中心に約1.1倍**に拡大。



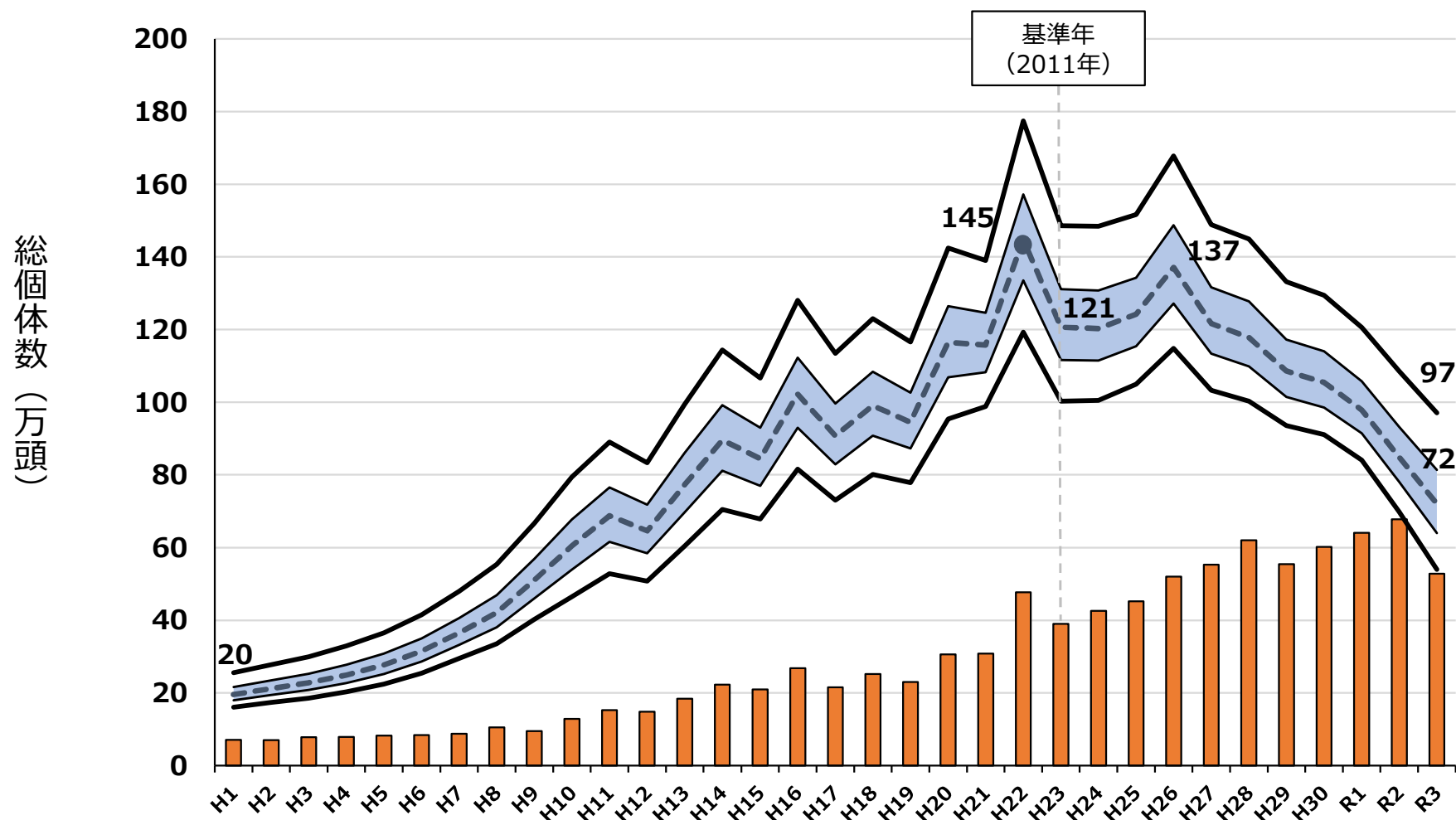
※「令和2年度ニホンジカ及びイノシシの個体数推定及び生息状況等調査業務」（環境省）により作成
2020年度（令和2年度）調査は2018年度（平成30年度）までの捕獲データから全国の分布状況を2021年（令和3年）3月にとりまとめたもの。

ニホンジカ分布域

- 1978年度調査で生息を確認
- 2003年度調査で新たに生息を確認
- 2011年度調査で新たに生息を確認
- 2014年度調査で新たに生息を確認
- 2020年度調査で新たに生息を確認

全国のイノシシの推定個体数

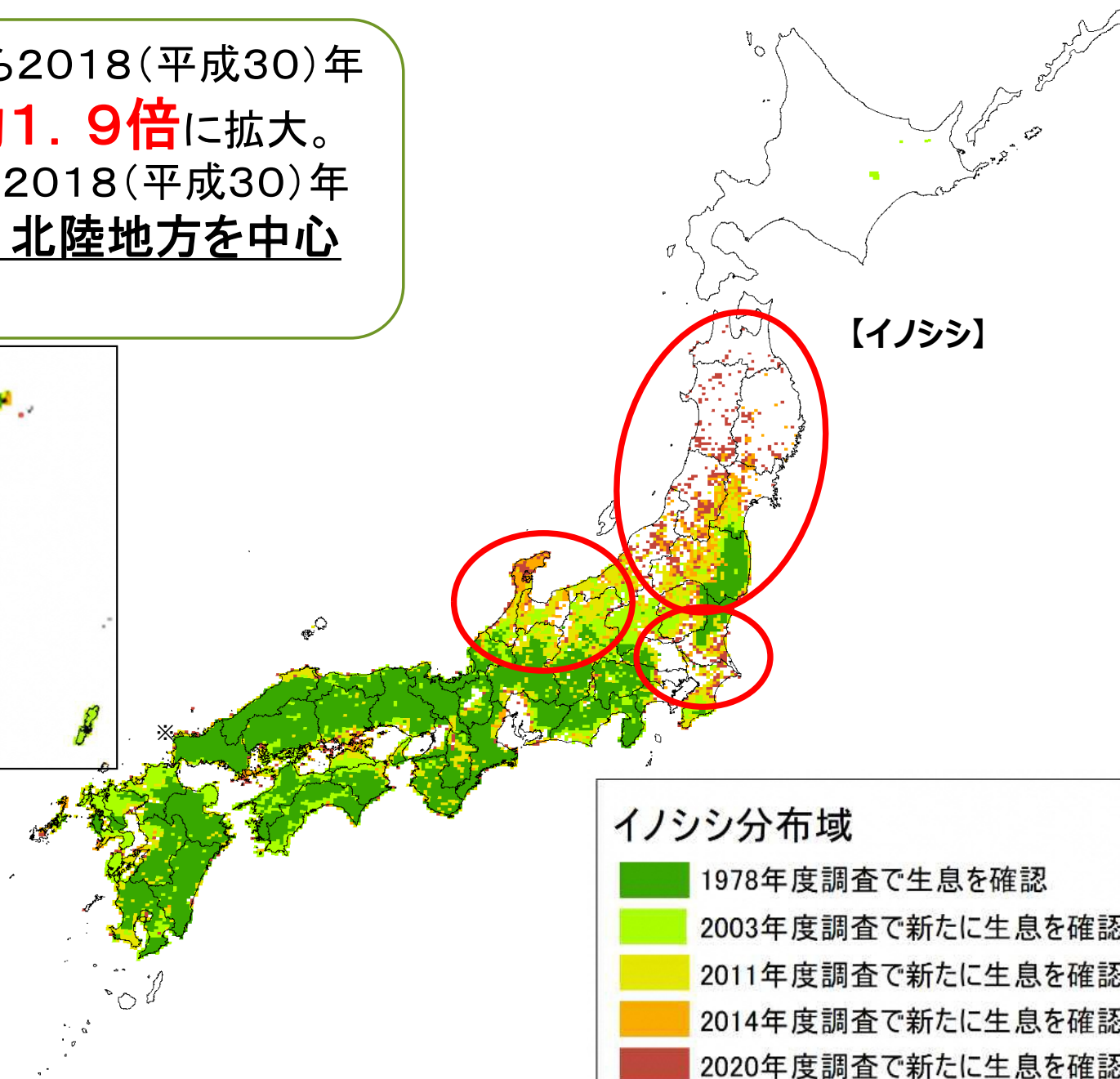
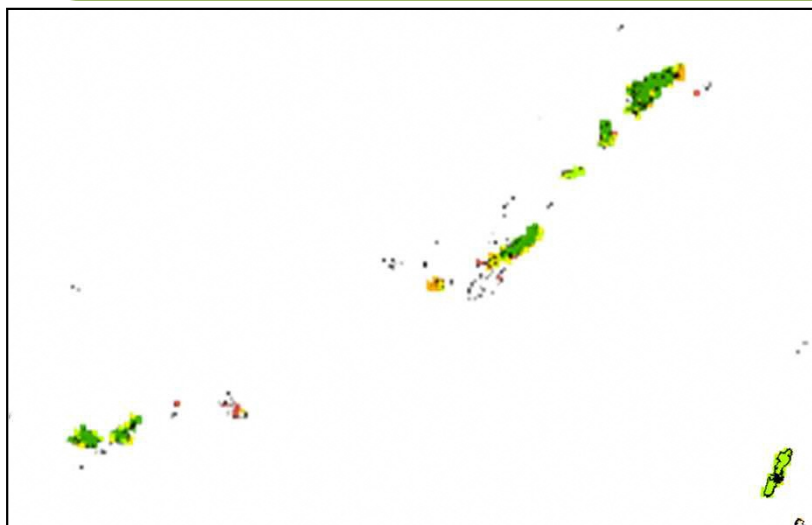
- 令和3（2021）年度末におけるイノシシの推定個体数は、中央値で約72万頭（90%信用区間：約54～97万頭）。
- イノシシの推定個体数は、2014年度（平成26年度）以降、減少傾向が継続。



※ 令和3(2021)年度の自然増加率の推定値は、中央値1.47(90%信用区間:1.29-1.64)

分布域の拡大（イノシシ）

○1978年(昭和53)年から2018(平成30)年の40年間で分布域は、**約1.9倍**に拡大。
2014(平成26)年から2018(平成30)年の4年間で、**東北、関東、北陸地方を中心に拡大**。



※「令和2年度ニホンジカ及びイノシシの個体数推定及び生息状況等調査業務」(環境省)により作成
2020年度(令和2年度)調査は2018年度(平成30年度)までの捕獲データから全国の分布状況を2021年(令和3年)3月にとりまとめたもの。

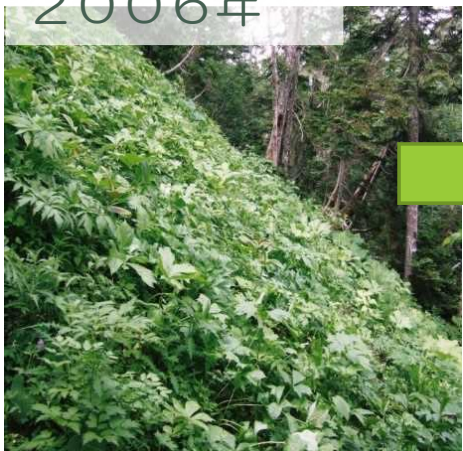
イノシシ分布域

- 1978年度調査で生息を確認
- 2003年度調査で新たに生息を確認
- 2011年度調査で新たに生息を確認
- 2014年度調査で新たに生息を確認
- 2020年度調査で新たに生息を確認

野生鳥獣を取り巻く現況

北岳

2006年



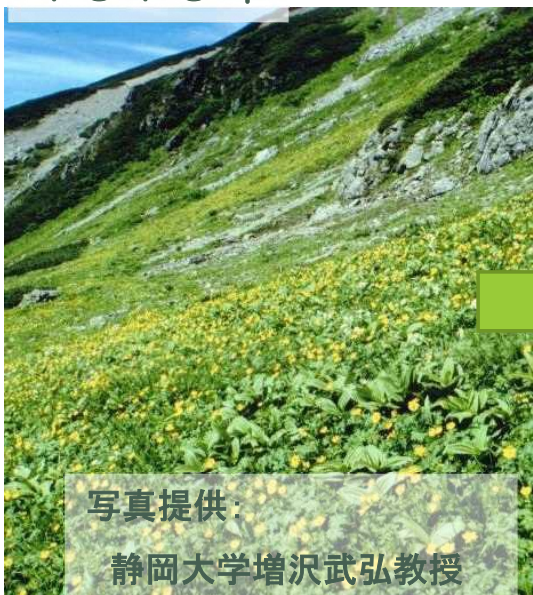
2007年



1年で林床の下層植生が消失

塩見岳

1979年



写真提供:

静岡大学増沢武弘教授

2005年



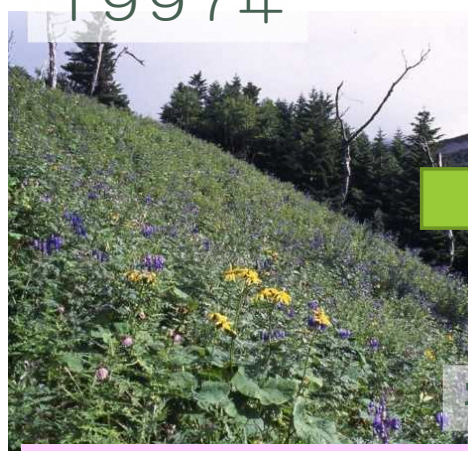
写真提供:

鵜飼一博氏

高山のお花畑が消失

聖岳

1997年



2007年



写真提供: 中部森林管理局元島氏

シカが好まない植物ばかりに

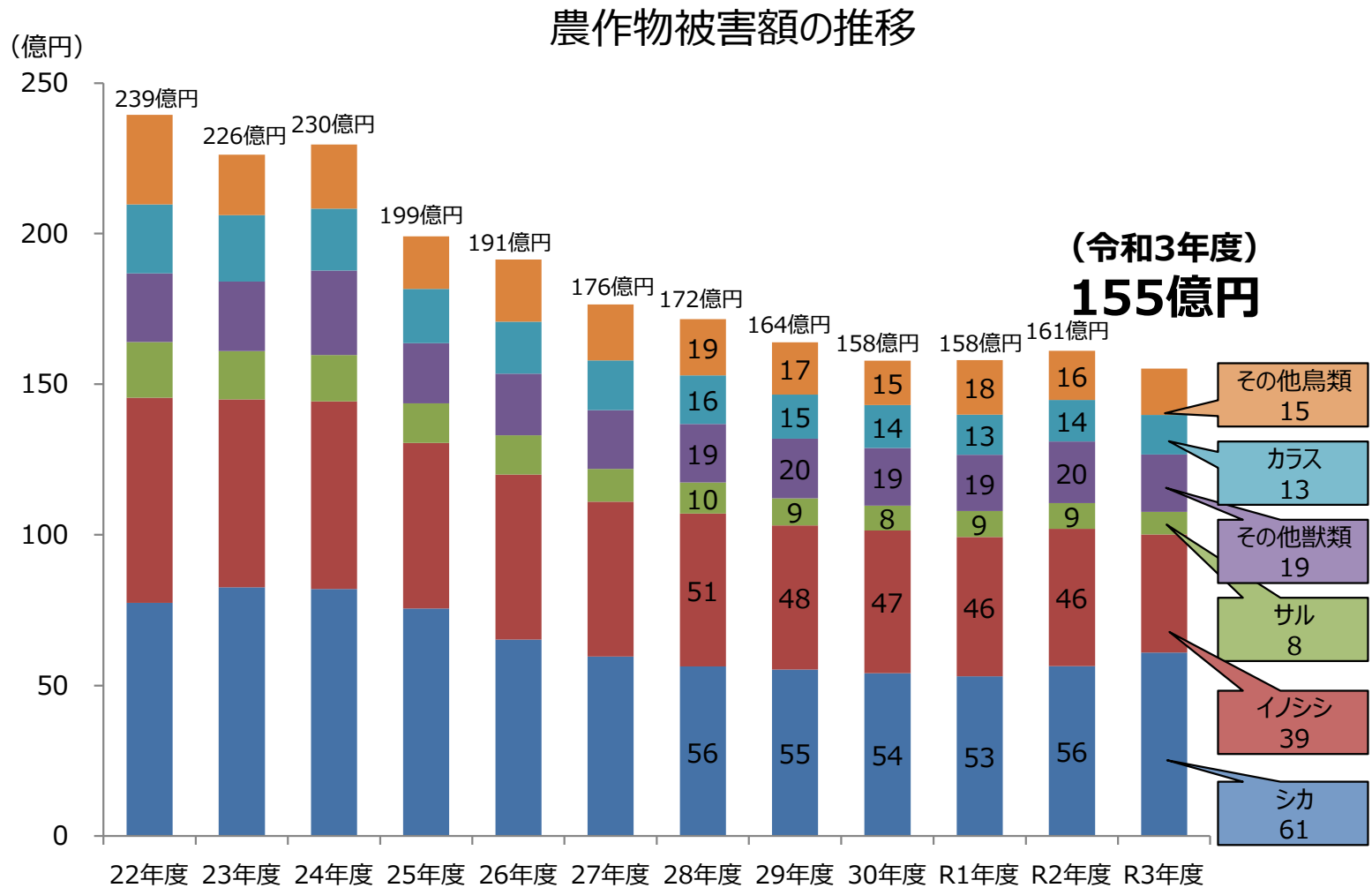
2020年



下層植生が失われ土壌流出

ニホンジカ・イノシシ・サルによる農作物被害

○シカ・イノシシ・サルによる農作物被害が多い。



シカに食害されたダイズ



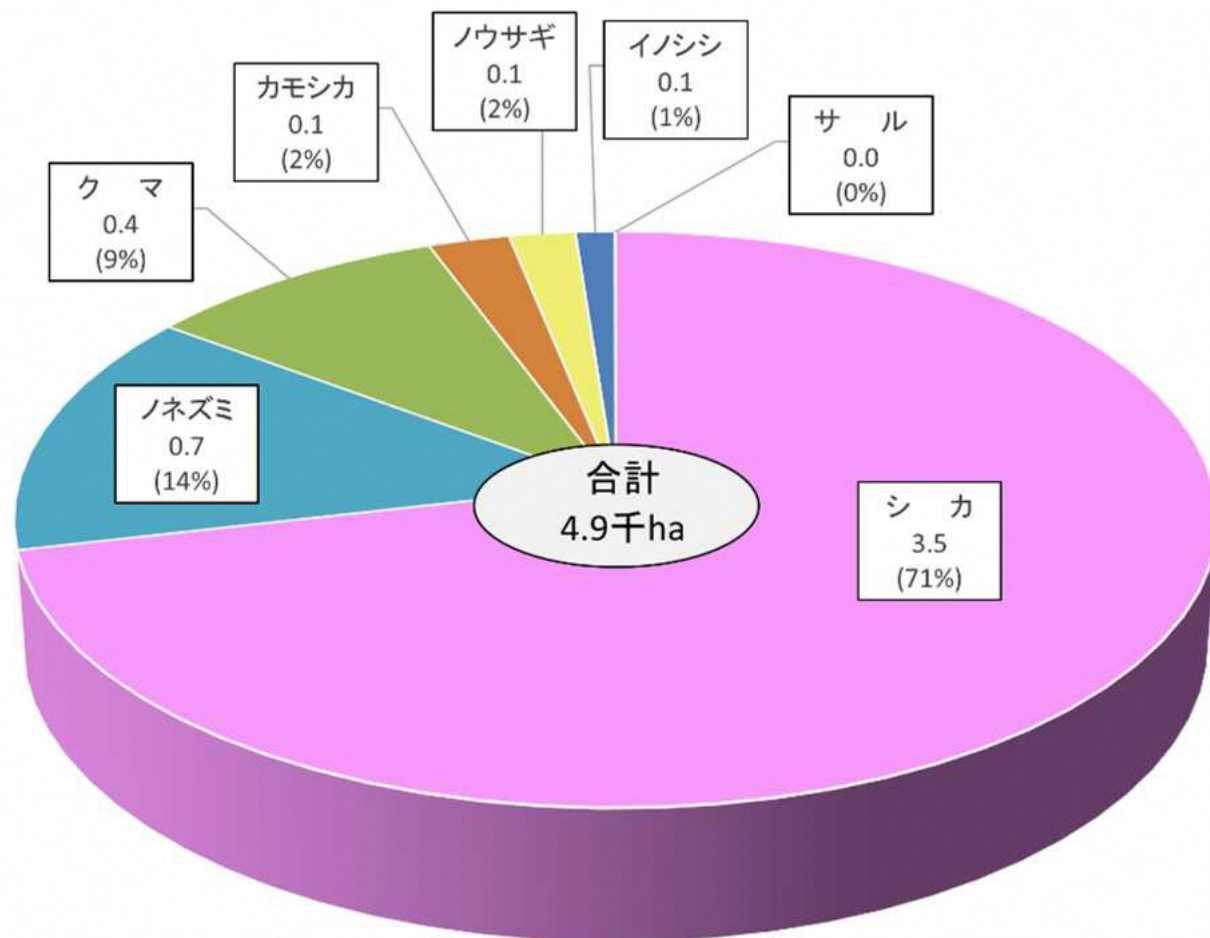
イノシシによる水稲の踏倒

【出典】「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について」（農林水産省）

ニホンジカの採食圧による森林被害

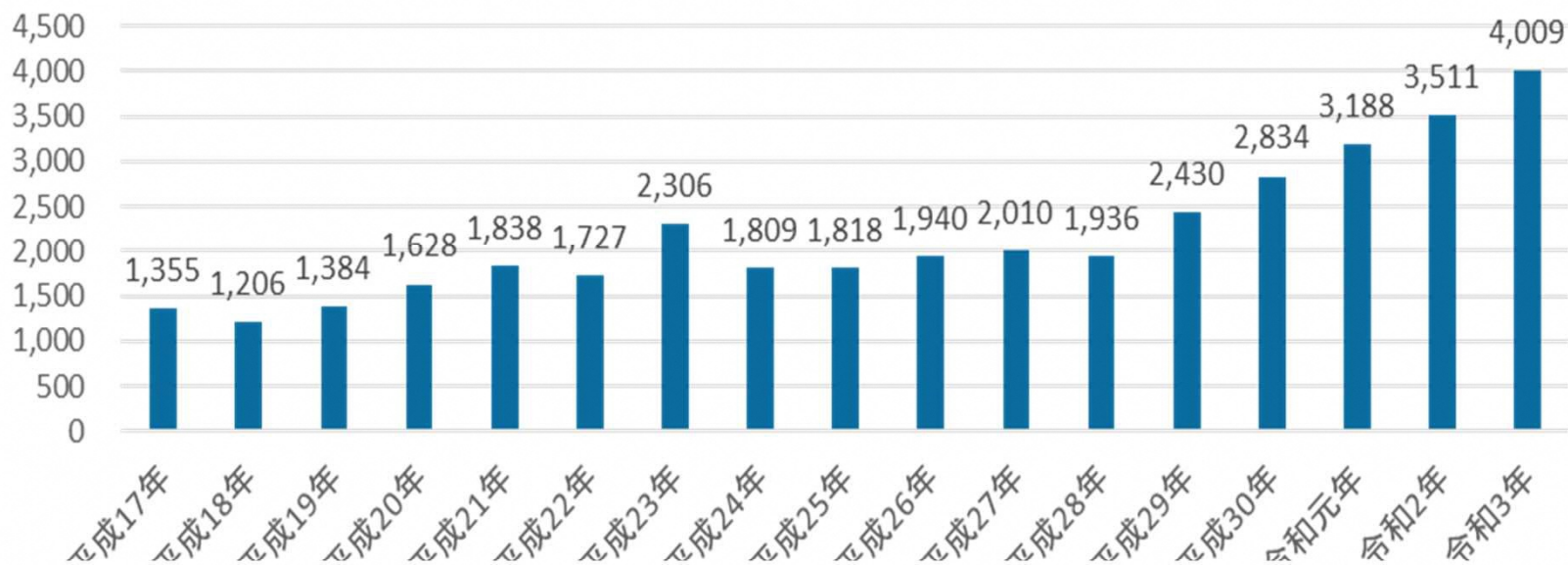
○主要な野生鳥獣による森林被害面積（令和3年度）

（都道府県からの報告による、民有林及び国有林の被害面積の合計）



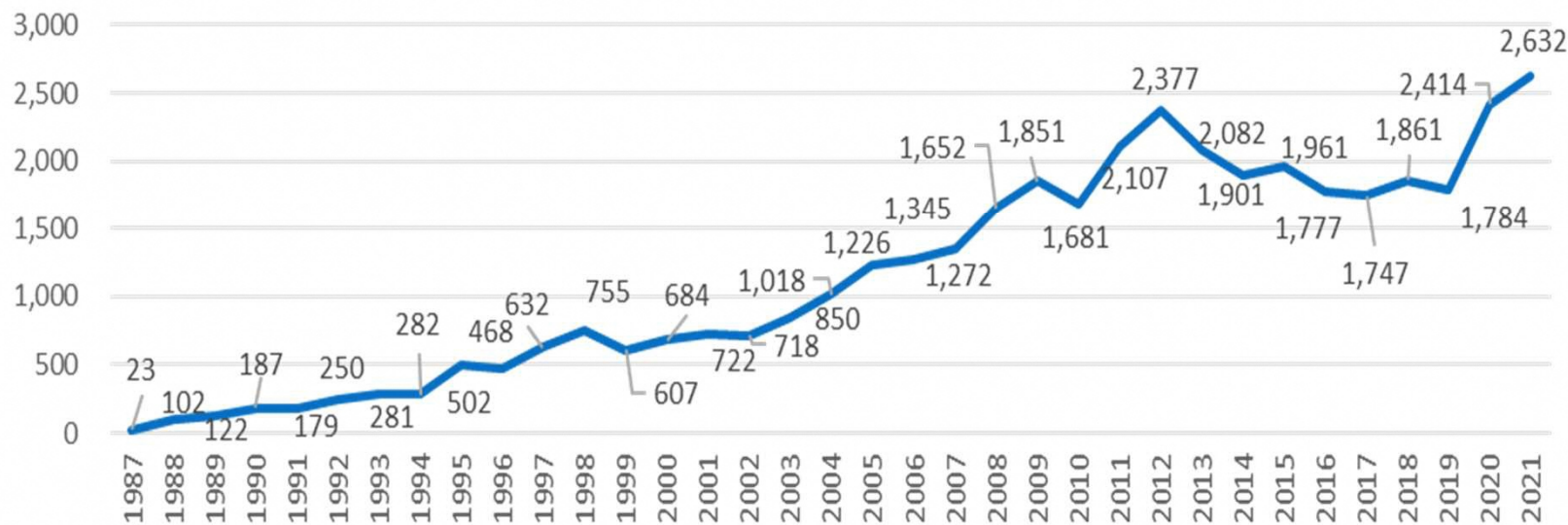
生活環境への被害も拡大（1）

シカが関連する交通事故発生件数(北海道内)



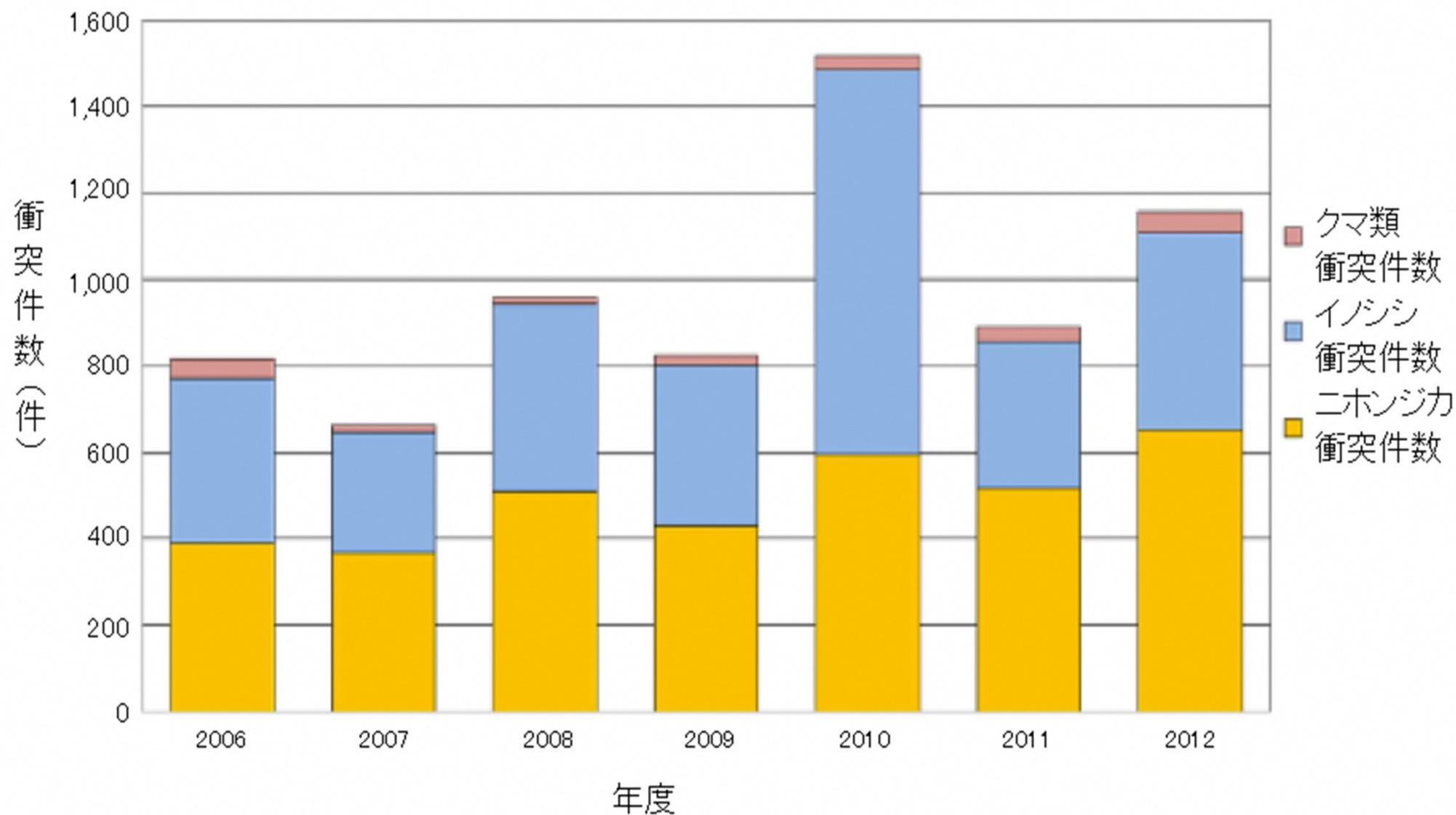
北海道警察本部資料から作成

JR北海道におけるエゾシカとの衝突件数



JR北海道資料から資料

生活環境への被害も拡大（２）



高速道路※における野生動物と車両との衝突事故件数の種別推移

※NEXCO管轄の自動車専用道における衝突件数
(NEXCO東日本・中日本・西日本提供のデータから作成)

鳥獣の保護及び管理の現状

1. ニホンジカ、イノシシ等の鳥獣の増加と被害の深刻化
2. 主な鳥獣の生態と捕獲の留意点
3. 科学的・計画的な鳥獣の保護及び管理の必要性
4. 鳥獣捕獲の担い手にかかる現状

鳥獣保護管理の基本的な考え方（1）

○ 鳥獣保護管理の三本柱

- ・ 個体群管理（→捕獲の強化が不可欠）
- ・ 生息環境管理
- ・ 被害防除対策

○ 鳥獣保護管理はPDCAプロセスに沿って進める

- ・ P(Plan) 計画をたてる。
- ・ D(Do) 計画を実行する。
- ・ C(Check) 計画を評価する。
- ・ A(Act) 評価を計画に反映する。

鳥獣保護管理の基本的な考え方 (2)

○ 鳥獣の管理は、「個体群管理」「生息環境管理」「被害防除対策」等の多岐にわたる事業を組み合わせて実施。

① 個体群管理

- ・ 適切な捕獲や、狩猟制限・緩和等により、個体群をコントロール



② 生息環境管理

- ・ 里地里山、耕作放棄地、牧草地の適切な管理
- ・ 針広混交林化の森林整備等



群馬県桐生市梅田地域の刈り払い活動風景

③ 被害防除対策

- ・ 防護柵の設置や追い払い
- ・ 生ごみや未収穫作物の適切な管理 等



電気柵



ワイヤーメッシュ柵



トタン柵



目隠し柵

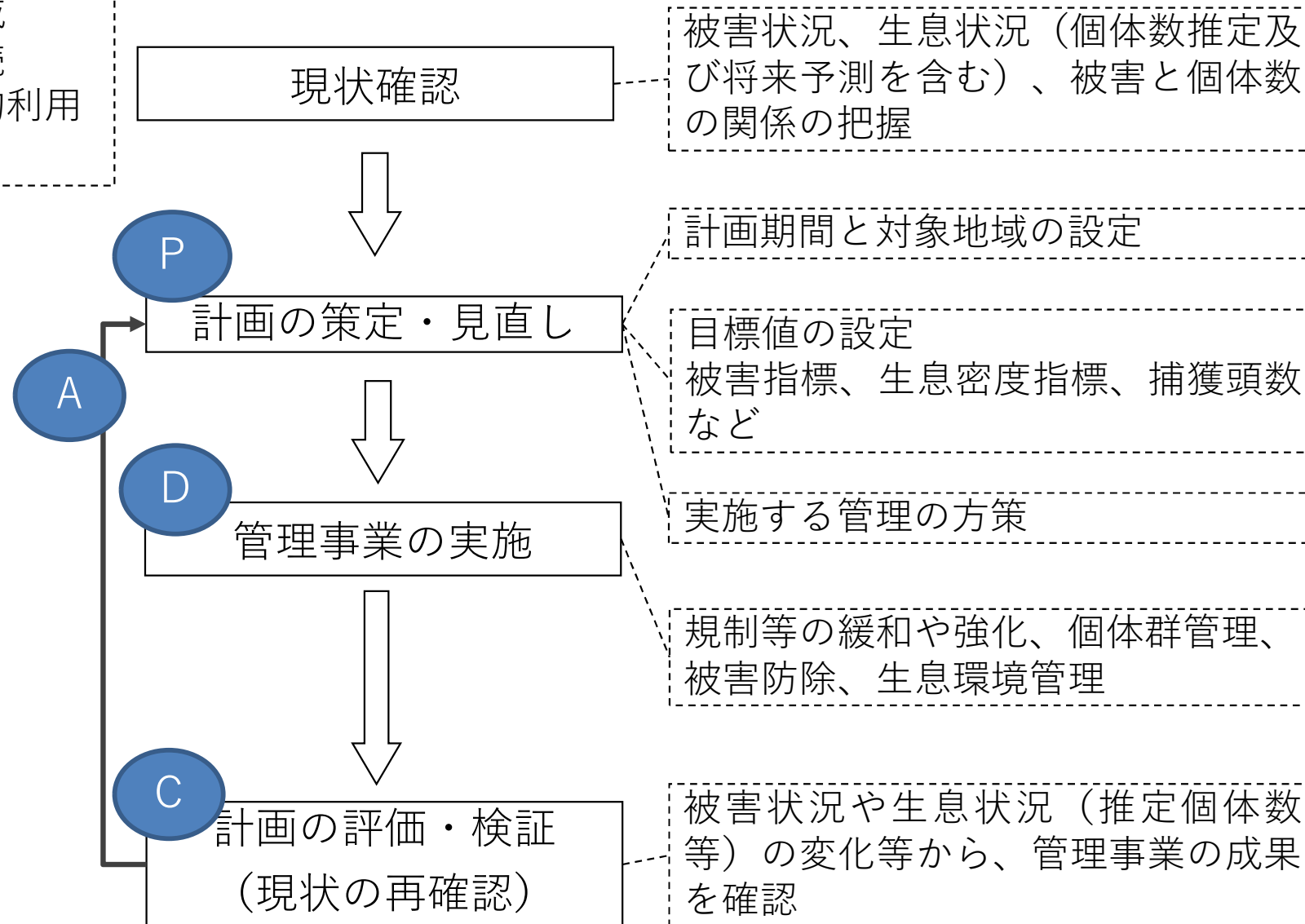
鳥獣の保護及び管理の現状

1. ニホンジカ、イノシシ等の鳥獣の増加と被害の深刻化
2. 主な鳥獣の生態と捕獲の留意点
3. 科学的・計画的な鳥獣の保護及び管理の必要性
4. 鳥獣捕獲の担い手にかかる現状

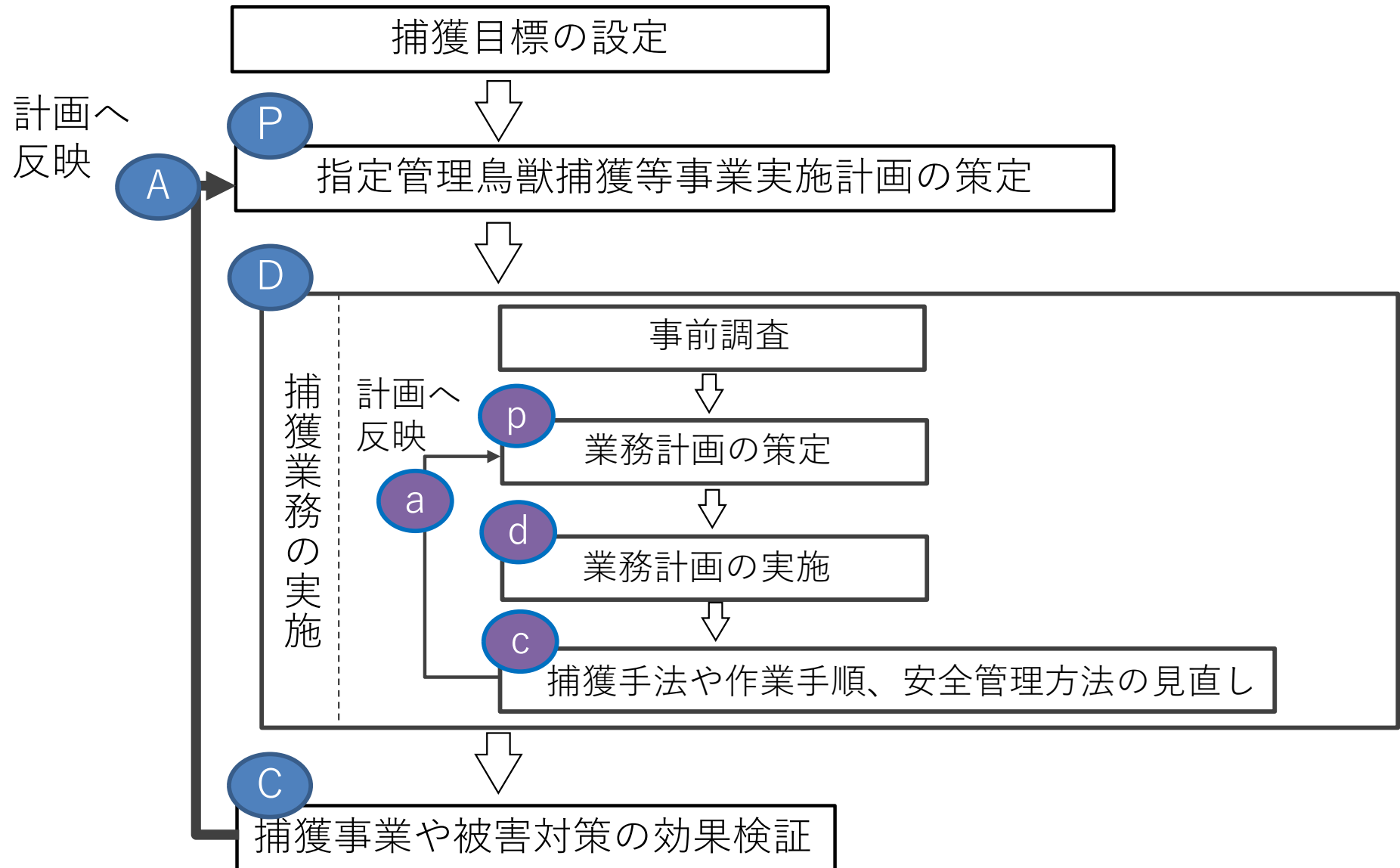
第二種特定鳥獣管理計画におけるPDCA

目的

農林業被害の軽減
生態系被害の軽減
地域個体群の存続
狩猟資源の持続的利用
など



全体のPDCAの中での個々の捕獲事業におけるPDCA

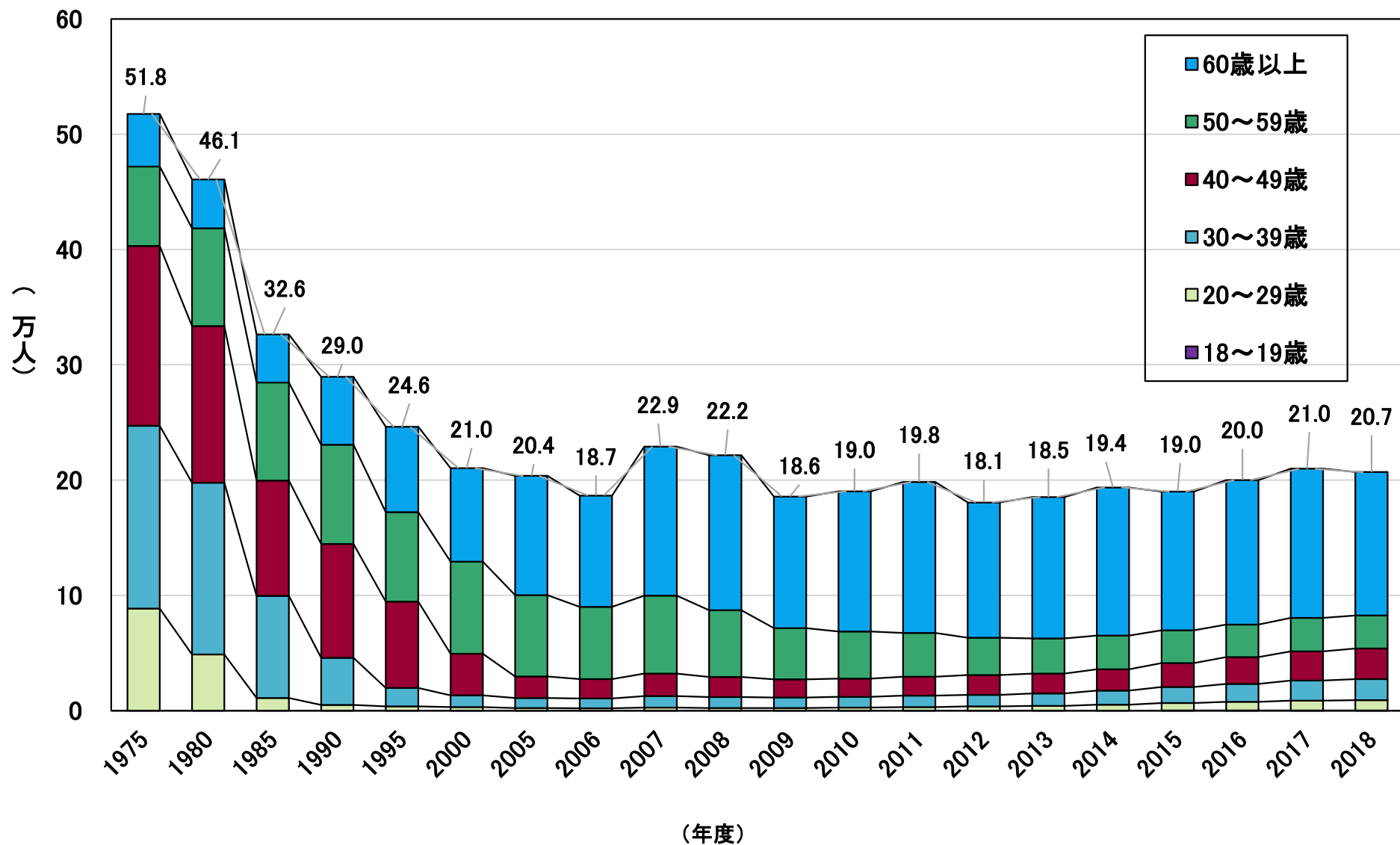


鳥獣の保護及び管理の現状

1. ニホンジカ、イノシシ等の鳥獣の増加と被害の深刻化
2. 主な鳥獣の生態と捕獲の留意点
3. 科学的・計画的な鳥獣の保護及び管理の必要性
4. 鳥獣捕獲の担い手にかかる現状

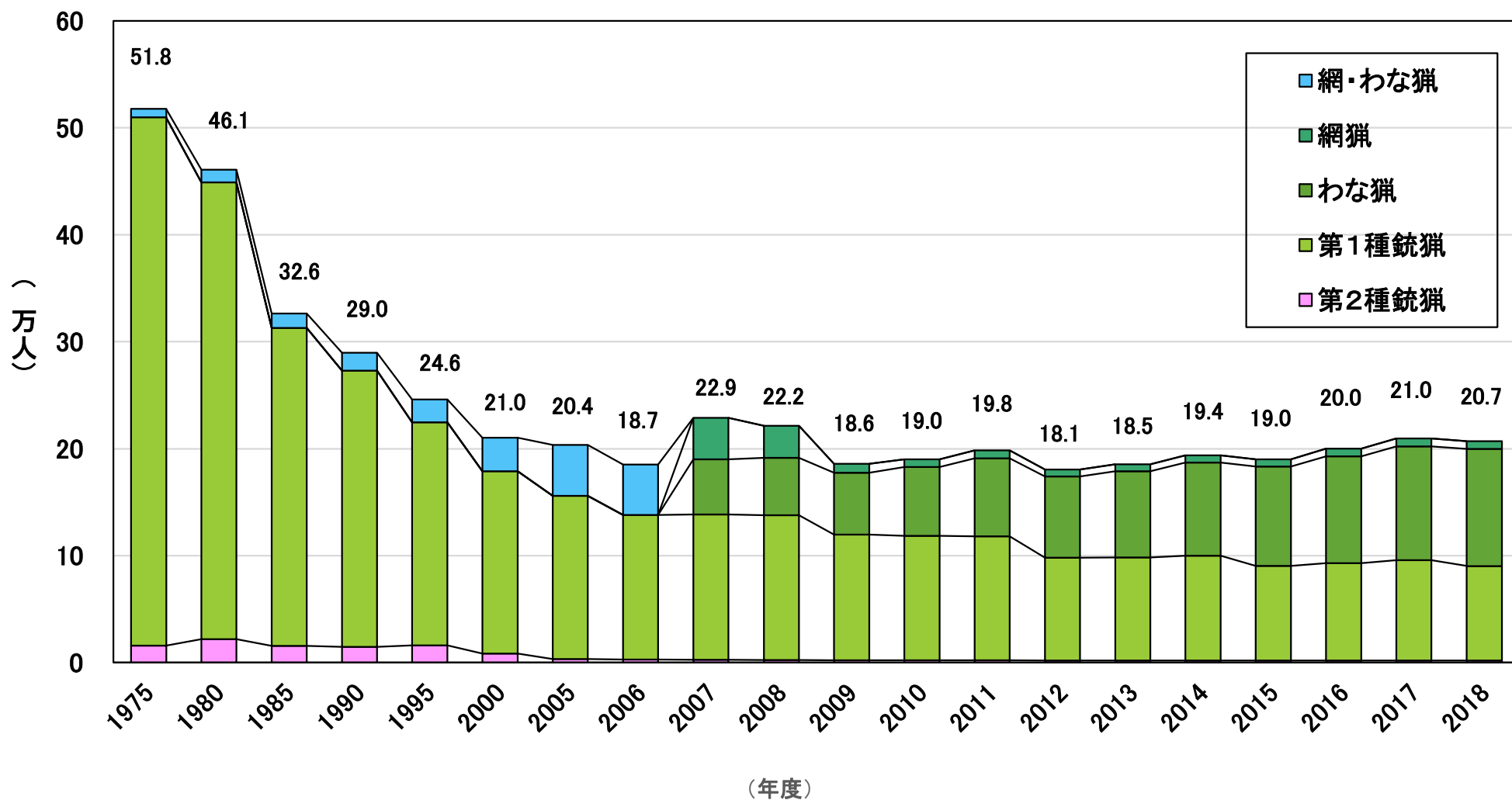
狩猟者の減少と高齢化

- 2018年度は60歳以上が60%を占める。
- 2011年度から2018年度の5年間で40歳未満の狩猟免許所持者数は約1.3万人→約2.7万人に増加。



狩猟者の減少（免許種別）

猟法別免許所持者は1975年度は第1種銃猟が95%、網・わな猟が約2%であったが、2018年度は、第1種銃猟が43%、わな猟が約53%を占めている



捕獲数の増加

- ニホンジカの捕獲頭数は、近年60万頭前後で推移し2011年から約1.7倍。2021年は過去最高を記録。
- イノシシの捕獲頭数は、2020年に過去最高を記録し2011年から約1.7倍。これまでの捕獲の取組や豚熱の影響により生息頭数が減少してきていると考えられ、2021年には捕獲頭数が大きく減少。
- 捕獲頭数に占める有害捕獲・個体数調整の割合は15年で約1/3から約3/4に増加。

